

OISA NEWS

OITA
INFORMATION
SERVICE INDUSTRY
ASSOCIATION

2026. 3
86

発行：大分県情報サービス産業協会
会長 加藤 健
<https://www.oisa.jp>
編集：広報委員会
事務局：大分市城崎町2-6-31
(大銀コンピュータサービス(株)内)
TEL (097) 537-5918
FAX (097) 534-4545
印刷：株式会社佐伯コミュニケーションズ

大分県情報サービス産業協会



CONTENTS

2026年 新年例会開催・会長挨拶	2
特別講演会	3
JISA西日本地区会 開催報告	
2025年度 OISA視察研修旅行	4
第20回OISA親睦ゴルフ大会	
第32回OISA研修の実施	5
第37回OISA技術交流会開催	6
第34回サウンズコンテスト	7
社会貢献活動参加	8
第31回OISAボウリング大会開催	



新着情報更新！
協会Webサイトも
ぜひご覧ください

しだれ桜の里（竹田市）

2026年

大分県情報サービス産業協会

新年例会開催

2026年の新年例会が、1月21日(水)に大分市のソレイユにて開催されました。

加藤健会長の新年の挨拶に引き続き、大分市副市長 清水久子様、九州経済産業局地域経済部情報政策課デジタル経済室 室長 三小田昌弘様、大分県商工観光労働部 審議監 佐藤元彦様からのご挨拶を頂戴し、特別講演へと移りました。本年は、(株)Siltaの三浦 里芳様に「失敗ではなく挑戦～人と人の繋がりを大切に～」という演題でご講演をいただきました。



加藤 健 会長

会長挨拶

皆様、新年おめでとうございます。私は大分県情報サービス産業協会の会長を仰せつかっております加藤でございます。どうぞ本年もよろしくお願いたします。

さて、昨年11月は佐賀県で大火事が発生、今なお厳しい状況で被災されている方々に、心からお見舞いを申し上げますとともに一日も早い復興をお祈り申し上げます。一方、世界ではロシアによるウクライナ侵攻はいまだに収束の目処がつかず、ベネズエラやイランの情勢も懸念されます。トランプ政権の動きから、その世界的影響にも目が離せない状況になっています。平和を望む世界の大多数の人々の想いとは違う方向に進んでいる現実を目のあたりにしています。

国内では急速に進む人口減少で人手不足が深刻になり、さらに、地球環境問題もまったなしの状況になっています。こうした目の前の喫緊の課題に対して、今取り組んでいかねば未来に向けて社会自体が健全な姿を失い、そこで暮らしている我々にも深刻な影響が出かねません。自らの企業のために事業を進め、収益を追求することがもちろん重要であることに変わりありませんが、一方で企業活動の基盤となる社会を脅かす課題も、力を合わせてこれを解決していかねばなりません。

この課題解決に大きな役割を期待されるのがデジタルの力であり、DXであります。デジタル庁は地方自治体システムの標準化、マイナンバーカードの活用、「新しい地方経済・生活環境創生」の推進などを進め、経産省もDXレポートを掲げ、企業のDXによる改革を加速させています。そのための人材育成も急務ですが、劇的な環境変化の中、従来の組織論や育成論だけでは通用しない時代に

入っています。とりわけ生成AIといった新しいテクノロジーの活用も極めて重要になっております。既に当協会としてもAIに関する研修、情報共有を進めておりますが、今後さらにあらゆる局面でのAIの活用が進むと考えられます。OISAの活動にも積極的に参加され、連携してこの難局を乗り越えていきましょう。

このような時代の中、OISAには大分県内の優れた企業が結集、人材育成のための学校もあり、各委員会活動も充実、既に社会課題解決につながる様々な事業を展開されています。個々にではなく、共に創造する共創というスタンスで、共通の課題に取り組むことが重要な時代に入っている中で、OISAのような企業を超えたつながりは、今後さらに重要なものになっていきます。その力を活かすためにも、さらに皆様方と情報共有の場を増やすことや産官学の連携を深めることに取り組んでまいりたいと考えています。企業間の連携を進めて単独では成しえない取組を、社会課題の解決に向けて進めていければ、各企業の発展とともに大分の発展、そこに暮らす人々の幸福=ウェルビーイングの実現にもつながると考えます。是非、力を合わせていきましょう。

結びになりますが、日頃より県下の情報サービス産業の発展と協会活動に、ご支援ご協力を賜り、会員各社、関係機関、関連団体の皆様には、厚く御礼申し上げます。今年は午年であります。馬のように勢いよく、明るい未来へ向かって進んでいける一年になりますよう、そして2026年が皆様にとりまして、輝かしい実りある豊かな一年となる事をご祈念申し上げます、新年の挨拶といたします。ありがとうございました。



大分市副市長 清水久子様



九州経済産業局地域経済部情報政策課
デジタル経済室 室長 三小田昌弘様



大分県商工観光労働部 審議監 佐藤元彦様

特別講演会

演題 失敗ではなく挑戦～人と人の繋がりを大切に～

日時：2026年1月21日(水) 16:00～17:30

場所：ソレイユ 7階 アイリスの間

講師：三浦 里芳 様(株式会社Silta 代表取締役「まほうのおうちオーナー」)

プロフィール

大分県出身。大学在学中には、キッチンカーの運営など多彩な活動を展開。大学3年在学中に、別府市でクロッフル専門店「まほうのおうち」を開業。大学卒業後、飲食事業と並行して学生と社会人と企業をつなぐ仕組み「Silta(シルタ)」の事業を立ち上げ、『株式会社 Silta』を設立。学生の挑戦を後押しし、企業との新たな関係構築を目指すイベントやインターンプログラム「SilJob(シルジョブ)」などを展開中。



JISA 西日本地区会 開催報告

令和7年度JISA(一般社団法人情報サービス産業協会)西日本地区会が、令和7年11月27日(木)、株式会社オーイーシー大分本社において、参加者26名により開催されました。



JISA 西日本地区会
代表幹事 佐藤 俊治様

第一部の冒頭では、西日本地区会代表幹事(OEC株式会社 代表取締役社長)の佐藤俊治様より、開会挨拶が行われ、世界情勢や情報サービス産業を取り巻く環境について言及されました。

続いて、JISA会長(SCSK株式会社 参与シニアフェロー)の福永哲弥様より、昨年11月に大分市佐賀間で発生した大規模火災により被害に遭われた方々へのお悔やみとお見舞いの言葉が述べられました。その後、11月25日に実施した自民党の情報産業振興議員連盟への説明内容を踏まえ、「AIネイティブなデジタル社会、さらにその先へ」をテーマに講演が行われ、AI事業を含む事業収益化(価値創造型事業モデル)の確立が不可欠であることが強調されました。

引き続き、JISA副会長兼専務理事の高橋淳様より、本年度のJISA委員会体制の概要説明が行われ、人材委員会やビジネス委員会で注力している「事業モデルの拡充・転換」や「価値基準の変革」に係る取組の背景、ならびにJISAの研修事業等が紹介されました。

あわせて、11月21日に閣議決定された「総合経済対策」のポイントについて、物価高対策や地方振興をキーワードに、「責任ある積極財政」を掲げる現政権の動向が紹介されました。



JISA 会長 福永 哲弥様



JISA 副会長 兼 専務理事
高橋 淳様

第二部では、「日経ニューオフィス賞」を受賞した株式会社オーイーシー大分本社(未来の杜 Play Field)の社屋見学が行われた後、JISA理事であり同社代表取締役社長の加藤健会長より、オーイーシーの取組について紹介がありました。続いて、同社からJISA価値基準調査部会に参加している山原豊様、ならびにJISA版NTCプロジェクトに参加している三浦蓮様から、それぞれJISAにおける活動内容と課題意識等についてプレゼンテーションが行われました。

第三部「大分県情報サービス産業協会(OISA)の活動紹介」では、OISAに設けられている6つの委員会の各委員長より、それぞれの委員会活動を紹介し、研修事業やイベント等活発な活動が展開されていることが共有されました。



株式会社オーイーシー
社内見学の様子



OISA 加藤会長
(JISA 理事)



JISA 価値基準調査部会
山原 豊様



JISA 版 NTC プロジェクト
三浦 蓮様



JISA 副会長
舩越 真樹様

また、JISA副会長(株式会社IDホールディングス 代表取締役社長)舩越真樹様からは、挨拶の中で、地域における採用活動を含めた産官学連携の重要性が強調されました。

続く、第四部では、「地域が輝くとは」「JISAに求めるもの」をテーマに情報交換が行われ、福永会長による総評の後、会場を移して懇親会が開催され、盛会のうちに閉会となりました。(JISA事務局)

2025年度 OISA 視察研修旅行

第1回視察先

CROSS LAB FUKUOKA

株式会社NTTドコモビジネス 九州支社

大阪万博のNTTパビリオンで紹介されていた次世代高速通信(IWON)と同様の環境を特別にご用意いただき、福岡と名古屋を接続して「じゃんけん」や木槌を使った振動の伝達など、リアルタイム通信のデモを体験しました。

福太郎めんたい本社工場

めんたい工場では、普段見ることのない製造工程について説明を受け、工場で作られた様々な味のめんたいを試食させていただきました。商品ごとの味を比較することで個性を把握できました。



日程：2025年9月11日(木) 参加：14社 22名

第2回視察先

国土交通省 九州技術事務所

国土交通省九州技術事務所では、九州各地の道路・河川・火山の状況を常に把握し、災害発生時の情報収集や判断、BCP対策について説明を受けました。

また、特殊車両の操作を体験し、産官学が連携して災害対策や特殊車両の開発に取り組んでいることを学ばせていただきました。

太宰府天満宮

梅の花が見頃を迎える中、参加者全員で太宰府天満宮を参拝しました。



日程：2026年2月20日(金) 参加：12社 18名

(企画委員会)

第20回 OISA 親睦ゴルフ大会



2025年11月15日(土) 白杵カントリークラブにて、雲ひとつ見当たらない爽やかな秋空のもと、6組16名の方にご参加いただき、グリーンに苦戦される方や、好スコアを出される方、それぞれのスタイルでプレーを楽しみながら親睦を深めました。

優勝は、株式会社 APC の廣戸祐介様でした。

(参加：12社 16名)

優勝 廣戸 祐介 (株式会社APC)

2位 久田 祥孝 (東芝デジタルエンジニアリング株式会社)

3位 岩田 恵一 (株式会社インタフェース)

DC 岩田 恵一 (株式会社インタフェース)

NP 平田 幸夫 (フコク電興株式会社)

横尾 経文 (大分交通株式会社)

佐藤 誠樹 (株式会社エイビス)

(企画委員会)

第32回 OISA研修の実施

～ご参加ありがとうございました～

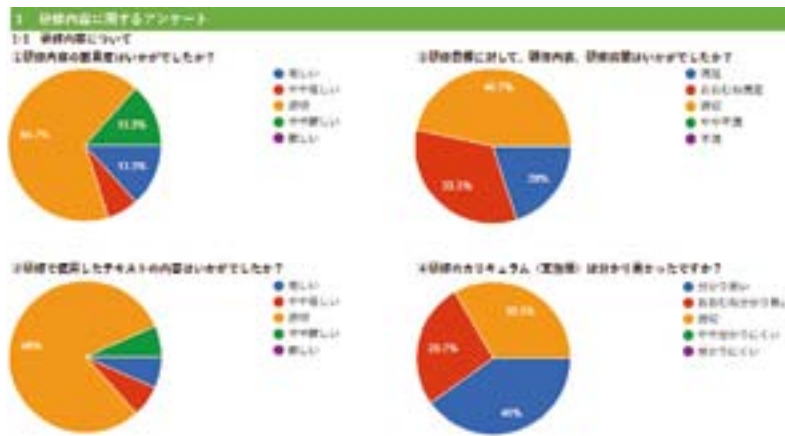
問題解決研修～ビジネス上の問題を解決する（1日コース）

開催日：2025年11月11日（火） 参加15名（10社）

本研修は、株式会社インソース様による研修で、15名の方のご参加をいただき、盛況の中で開催することができました。研修では、「現場に潜む問題の真因の発見と解決策まで考える」プロセスについて演習を通して体験することが狙いです。参加者は各3名のグループに分かれて講義を受け、個人ワーク・グループワークを通じて問題解決手法について学ぶことができました。

研修後の受講者アンケートからは、「ロジカルシンキングや問題解決は業務改善等に直結していると感じた」、「問題解決について、基本的なところから振り返って学ぶことができた。本日学んだことを会社に持ち帰り、活用していきたい」など様々なご意見をいただきました。中には、「もう少しディスカッションしたかった」というグループワークに対する積極的なご意見もあり、今後の研修の進め方に対する貴重な意見もいただきました。

非技術系の演習は、業務と直結しにくく効果測定が難しい反面、個人のスキル習得やモチベーションに繋がるものであり、組織全体の底上げにつながる研修でございます。次回以降も是非会員の皆さまのご参加をお待ちしております。



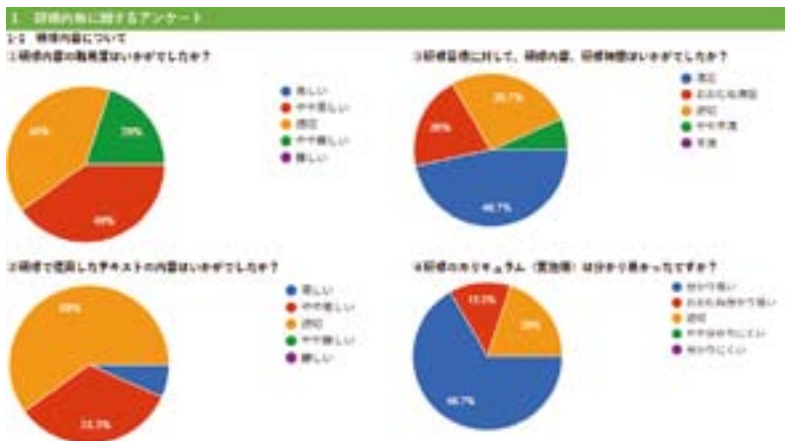
ゼロからはじめるPythonによる日常業務効率化研修（1日コース）

開催日：2025年11月18日（火） 参加15名（9社）

本研修は、株式会社富士通ラーニングメディア様のご協力で、Pythonを用いた定常業務（ファイル・ディレクトリ操作・Excel操作など）を自動化することを目的に、日常業務のシナリオをベースにPythonのライブラリを使って効率化する方法を学習しました。プログラミング経験の有無を問わず、学習することが出来る内容となっており、15名の参加者は真剣に講義に臨んでいました。

受講者からは「初めてPythonについて学んだため、分からない部分が多いと思っていたが、非常に分かりやすい説明だった。もっと学んでみたいと思った」、「日頃煩雑に感じている業務について、本日の研修内容を生かし、効率化を図っていきたく感じた」という大変好意的なご意見をいただきました。また、「対面であったので個人個人の作業スピードに合わせてもらったのでやりやすかった」、「実際の活用を想像しながら学ぶことができた」というご意見もありました。

研修委員会として、技術系については今後も業務に役立てられるような研修を充実させていきたいと考えております。



研修後のアンケート等も参考にし、これからも会員の皆さまのニーズを反映した研修を企画していきます。今後ご意見、ご要望をお待ちしています。

（研修委員会）

第37回「OISA 技術交流会」開催

日時：2025年12月1日(月) 13:30～17:30 場所：ハイブリッド開催（現地会場：株式会社オーイーシー）
（参加人数120名程度）

第1部 講演「量子コンピュータの今と今後に向けて」

富士通株式会社 富士通研究所 量子研究所 シニアディレクター 近藤正雄様より、「量子コンピュータの今と今後に向けて」と題してご講演をいただきました。社会やビジネスに革新的な変化をもたらす量子コンピュータの歴史についての理解が深まるお話から始まり、アニーリング方式やゲート方式といった量子コンピュータにおける計算方式の解説や、超電導や量子もつれなどのいくつかの専門的な用語についての説明も織り交ぜた内容で、量子コンピュータの特性及び仕組みを身近に感じることが出来るご講演でした。また、富士通と理研による量子コンピュータの実用的な研究のご紹介と同時に、ハードウェアの開発の困難等量子コンピュータが抱える課題も提示され、量子コンピュータの今後の展望も含めた奥深い講演となりました。



近藤 正雄 様

第2部 技術研究会発表会

・ AI 駆動開発部会「～人+ AI で創る～ プロダクト開発シミュレーション」

AI エージェントを活用した新しい開発プロセスを実践・検証しました。近未来の開発手法の体験を目的に、AI による自律的なコード生成・テスト・ドキュメント作成などの自動化に取り組み、開発は TDD (テスト駆動開発) を基本とし、仕様書・静的チェック・テストという「ガードレール」を設定することで、品質担保・誤った実装の防止を図っています。AI 導入で実装スピードは向上しましたが、人的レビューがボトルネックとなるなどの課題も顕在化しました。開発ルールやドキュメントの明確化や AI フレンドリーな情報基盤の整備が求められており、実践結果では作業効率や品質向上、フィードバックループの短縮、より細かな設計の重要性など、多くの気づきを得ることができました。



AI 駆動開発部会

・ AI エージェント部会「AI エージェントは旅のコンシェルジュになれるか ～速度と体験の比較から見える未来～」

AI エージェントを活用した旅行プラン作成の効率や体験の比較をしました。旅行計画 (2026/1/25-26 レディ・ガガ東京ドームライブ参加、3人・予算 15 万円・飛行機 / 新幹線利用) を AI と手動でそれぞれ作成し、所要時間や体験面の違いを検証しました。AI エージェントによる計画は所要時間が短く効率的ですが、計画を考える楽しさや「内なる余白」が失われるジレンマを指摘しています。効果的なエージェント運用には、目的の明確化や具体的な手順・制約の設定、必要情報の提供が重要であるとまとめ、人と AI が共生するためには情報の渡しすぎや考える余白を残すといった小さな選択が求められると提言されており、「便利さ」と「体験の質」について課題を投げかけています。



AI エージェント部会

・ 量子コンピューティング部会「量子コンピュータのゲート方式による夫婦の家事分担の最適化問題」

ゲート方式を使った現実的な問題への応用例として「夫婦の家事分担の最適化」を取り上げました。まず量子コンピュータと古典コンピュータの違いや、量子ビット（重ね合わせ・量子もつれ）および量子ゲートの基本的な仕組みについての解説と計算の流れや各ゲートの役割 (Xゲート、CXゲート、CCXゲートなど) を紹介し、データベース探索の代表的な量子アルゴリズムである Grover のアルゴリズムを実社会の課題解決へ応用する流れを解説するとともに、具体的な家事タスクを例に「どのように分担の最適化を量子コンピュータで実現するか」を考察しました。最終的に、量子ゲート方式による組み合わせ最適化がいかに効率的であるか、その社会的価値やアプローチ方法を示しています。



量子コンピューティング部会

まとめ

今回の3テーマを通じて、現場での実践的な応用や社会課題へのアプローチを模索しました。「～人+ AI で創る～プロダクト開発シミュレーション」では、テスト駆動開発 (TDD) 環境下で AI エージェントと協働する実践を通じ、開発効率や品質向上、レビュー工程の課題、AI 協調の未来像について言及しています。「AI エージェントは旅のコンシェルジュになれるか」では、AI による旅行プラン作成の効率性や自律性だけでなく、人間ならではの「楽しみ」とのジレンマや AI 社会の「内なる余白」の重要性が語られています。「量子コンピュータのゲート方式による夫婦の家事分担の最適化」は、量子アルゴリズムの社会課題解決への応用可能性を具体例とともに示しました。全体を通して、人と AI (あるいは量子技術) が協働し新たな価値や効率化を生み出す過程で、技術的限界や社会的インパクト、楽しみ・余白の意義にも目を向けた、現代的な問題意識が浮き彫りになっています。

(技術委員会)

第34回

サウンズコンテスト

日時：2026年1月24日(土) 13:30～17:00

会場：OEC CUBE (株式会社オーイーシー South Field 1F,2F)

ON THE COMPUTER

協会理事
あいさつ

今年で34回目を迎えた「サウンズコンテスト On The Computer」は、1月24日(土)に大分市のOEC CUBEで開催されました。

今年は全国から383曲もの応募が寄せられ、関心の高さと参加者のレベルの高さに、審査員一同驚かされました。厳正な予選を勝ち抜いたフリー曲部門15曲、ふるさと応援歌部門2曲、トリニータ応援歌部門5曲、合計22曲による本審査は、聴き応えのあるハイレベルなステージとなりました。

司会は今回もOBSアナウンサーの村津孝仁様にご担当いただき、プロならではの軽快な進行で、インタビューや授賞式、記念撮影まで会場を大いに盛り上げていただきました。

さらに、コンテストの様子はYouTubeでリアルタイム配信を実施。ライブ視聴者は110名を超え、会場に来られなかった応募者やファンの皆さまにも楽しんでいただくことができました。

審査結果は公式ホームページでも公開し、当日ご来場いただけなかった受賞者の方々には、賞状と賞品をお送りしました。



インタビュー

審査結果

賞	氏名	地区	タイトル
グランプリ	松原 広	福岡県	TARANTELLA
フリー曲部門 一般1位	海月	神奈川県	水城都市
フリー曲部門 一般2位	塩月 成一郎	大分県	無重力の旅人
フリー曲部門 一般3位	白ノ崎ユウト	神奈川県	Attractive
フリー曲部門 学生1位	the BLOOM	愛媛県	White chocolate
フリー曲部門 学生2位	オーグメントP	兵庫県	光と色彩のワルツ
フリー曲部門 学生3位	といざらす	愛知県	×2%
トリニータ応援歌部門 最優秀賞	荒金 博	大分県	Vamos! Trinita
審査員特別賞	りのん	大分県	かがくのうた

今年は400曲近い応募の中から選ばれる激戦の年となりました。その厳しい競争を勝ち抜き、見事グランプリに輝いたのは、福岡県の松原広氏による作品「TARANTELLA」でした。

松原氏はこれまで何度も最終予選に進出してきた実力者で、今回は悲願の初グランプリ受賞となりました。

作品については「タランテラ、毒蜘蛛にまつわる呪術的舞踊曲」とコメントされており、舞踊曲というジャンルをコンピュータミュージックで見事に表現した、印象的な楽曲でした。



参加者記念撮影

審査委員

	氏名	審査歴	備考
審査委員長	田村 洋彦	30回目	大分大学名誉教授(音楽科)・東アジア作曲家協会顧問
審査委員	林田 誠	2回目	ピアニスト
審査委員	吉村 駿也	1回目	作曲家・編曲家
審査委員	眞名井 龍一	11回目	大分県情報サービス産業協会 事務局長

トリニータ応援歌

今回も、大分フットボールクラブの後援による「トリニータ応援歌部門」を実施しました。どの楽曲にも、J1復帰を目指す大分トリニータへの熱い想いと、今シーズンへの期待が込められており、力強い応援メッセージが伝わってきました。

その中で最優秀賞に輝いたのは、大分県の荒金博さんの作品「Vamos! Trinita」です。

この楽曲は、今春のホームゲーム開幕戦前に大分フットボールクラブへ贈呈され、今後一年間、クラサスドーム大分で開催されるホームゲームのBGMとして使用されます。

観戦に行かれる際は、試合前に流れる音楽にもぜひ耳を傾けてみてください。

最後に、応募曲や映像の編集、会場設営などで多大なご協力をいただいた日本文理大学関係者の皆さま、そして多くのご後援・ご協賛を賜りました各社の皆さまに、この場をお借りして心より御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

(イベント委員会)

社会貢献活動参加

開催日：2026年2月1日(日)

2026年2月1日(日)、第74回別府大分毎日マラソン大会が冬晴れのもと開催され、約4,200名のランナーが別府から大分のコースに挑みました。

レース前から注目を集めていたのは、学生最速級として期待された青山学院大学の黒田朝日選手と、実力派ランナーとして知られる吉田祐也選手。両選手は序盤から先頭集団で積極的にレースを引っ張り、沿道から大きな声援が送られました。結果は、ゲタチョウ・マスレシャ選手(エチオピア)が2時間6分49秒で優勝、吉田選手が2位、そして本調子ではなかったとされる黒田選手も3位に入り、期待に応える走りを見せました。

当協会からは、今年も給水ボランティアとして149名が参加し、11km・13.5km・38.5km・41kmの4拠点で給水活動を行いました。強風の中での作業は容易ではありませんでしたが、走り抜ける選手からの「ありがとう」という言葉が大きな励みとなり、活動後には大きな達成感を得ることができました。

来年もランナーを支えるこの活動を継続し、多くの方にご参加いただけることを願っています。
(総務委員会)



第31回 OISAボウリング大会開催

開催日：2025年11月26日(水) 場所：OBSボウル

去る11月26日(水)、イベント委員会主催のボウリング大会がOBSボウルにて開催され、23社36チーム・総勢144名が参加する盛大なイベントとなりました。皆さまのご協力とご参加のおかげで、今年も全レーンを使用したにぎやかな大会となりました。

競技は1チーム4名編成で、2ゲームのトータルスコアを競う形式で行われ、団体戦・個人戦ともに白熱した戦いが繰り広げられました。会場は終始、歓声や拍手に包まれ、笑顔あふれる時間となりました。

競技終了後は場内のミーティングルームに移動し、表彰式を実施しました。上位入賞者の発表と賞品授与、記念撮影も行われ、和やかで楽しい雰囲気の中、大会は幕を閉じました。

団体戦では、富士フィルムBI大分Aチームが、前回優勝のリコージャパンチームを抑えて見事優勝。個人戦男子は又吉隆紀さんがトータル463点、個人戦女子は村井優子さんがトータル407点で優勝を勝ち取りました。中でも又吉さんは、昨年に続く連覇という素晴らしい成績を収め、会場を大いに沸かせました。



優勝チーム



準優勝チーム

団体戦の部

順位	チーム名	総得点
優勝	富士フィルムBI大分 A	1,332点
準優勝	オーイーシー B	1,306点
3位	ザイナス A	1,286点

個人戦の部

	氏名	総得点
男子ハイゲーム賞	又吉 隆紀(リコージャパン)	463点
女子ハイゲーム賞	村井 優子(モバイルクリエイト)	407点

次回も皆様のご参加をお待ちしています。

(イベント委員会)

OISA NEWSは協会Web
サイトでも読
むことができ
ます。



当協会も後援団体として協力しております第21回IPA「ひろげよう情報モラル・セキュリティコンクール」2025より大分県内の優秀賞が発表されました。QRコードよりアクセスできますのでぜひご確認ください。
(<https://www.ipa.go.jp/security/contest/2025-sakuhin/index.html>)

